

国衙・郡衙・古寺跡等
範囲確認調査概要報告書 IV

1995・3

宮崎県教育委員会

序

埋蔵文化財の保護・活用につきましては日頃から深いご理解をいただき厚くお礼申し上げます。

さて古代における地方政治の中心的役割を果たした政府跡（国衙・郡衙）等は本県においては国分寺を除いてその位置が明確にされていませんでしたが、宮崎県教育委員会では昭和63年度から平成2年度の3か年、国庫補助を受けて国衙・郡衙・古寺跡等遺跡詳細分布調査を実施しました。その結果、西都市大字妻、同右松周辺の稚児殿池と都萬神社にはさまれた寺崎一帯が可能性の高い地域としてとらえられるようになり、また、国分寺跡周辺の確認調査でも建物跡を検出するなどかなりの成果がありました。

そこで平成3年度から5か年計画で引き続き国衙・郡衙・古寺跡等の範囲確認調査を実施することになりました。今年度はその4年目として寺崎遺跡の3次調査を実施し、建物の一部が検出されるなど大きな成果を得ることができました。

本書は、今年度行いました確認調査の成果の概要をまとめたものです。今後の調査研究の基礎資料として各方面でご活用いただくとともに、保護啓発のための一役となることを期待します。

平成7年3月

宮崎県教育委員会

教育長 田 原 直 廣

例　　言

1. 本書は、宮崎県教育委員会が国庫補助を受けて、平成3年度から平成7年度の5か年に実施する国衙・郡衙・古寺跡等の範囲確認調査の平成6年度の調査概要報告書である。
2. 6年度の確認調査は県文化課埋蔵文化財第一係主事橋本英俊・県総合博物館埋蔵文化財センター主査長津宗重が担当した。調査区は、西都市大字右松2802他3か所を対象に、平成6年6月22日から9月27日の間実施した。
3. 本書の執筆、編集は橋本が担当した。本報告では、SE…溝、SH…柱穴の略記号を用いている。
4. 調査にあたっては、調査指導委員会の委員や特別調査員の先生方にご指導いただいた。また、西都市教育委員会をはじめ、県総合博物館、同西都原資料館にはいろいろご協力いただき、記して感謝する次第である。
5. 確認調査で出土した遺物は県総合博物館埋蔵文化財センターにおいて、整理・保管している。

本文目次

第1章 はじめに	1
第1節 調査の経緯と組織	1
第2節 調査の概要	4
第2章 調査の結果	6
第1節 寺崎遺跡3次調査	6
第3章 まとめ	10

挿図目次

第1図 日向国府推定地および周辺遺跡位置図	2
第2図 国衙・郡衙・古寺跡等の関連調査トレンチ配置図	5
第3図 寺崎遺跡3次調査区遺構分布図	8
第4図 建物想定図	9
第5図 出土遺物実測図	11

第1章 はじめに

第1節 調査の経緯と組織

調査の経緯

古代日向における政治的中心的役割を果たした政庁跡（国衙・郡衙）に関する考古学的資料は、皆無であり、僅かに国分寺跡のみが昭和23年と36年の調査により所在が西都市三宅で明確になっているのみである。また所在地の目安となる奈良・平安時代の布目瓦は西都市6か所、佐土原町3か所、宮崎市2か所、えびの市1か所、延岡市1か所の13か所で確認されている。このうち西都市内の推定地は、西都市三宅の印鑄神社北側（推定地B）、西都原台地と沖積地との間に広がる中間台地上の寺崎から都萬神社一帯（推定地D）、沖積地の市街地一帯の妻から剣田周辺（推定地D'）、とその南の右松周辺（推定地C）である。近年、この周辺は、都市化が進み区画整理事業の計画等により遺跡の破壊が懸念される。

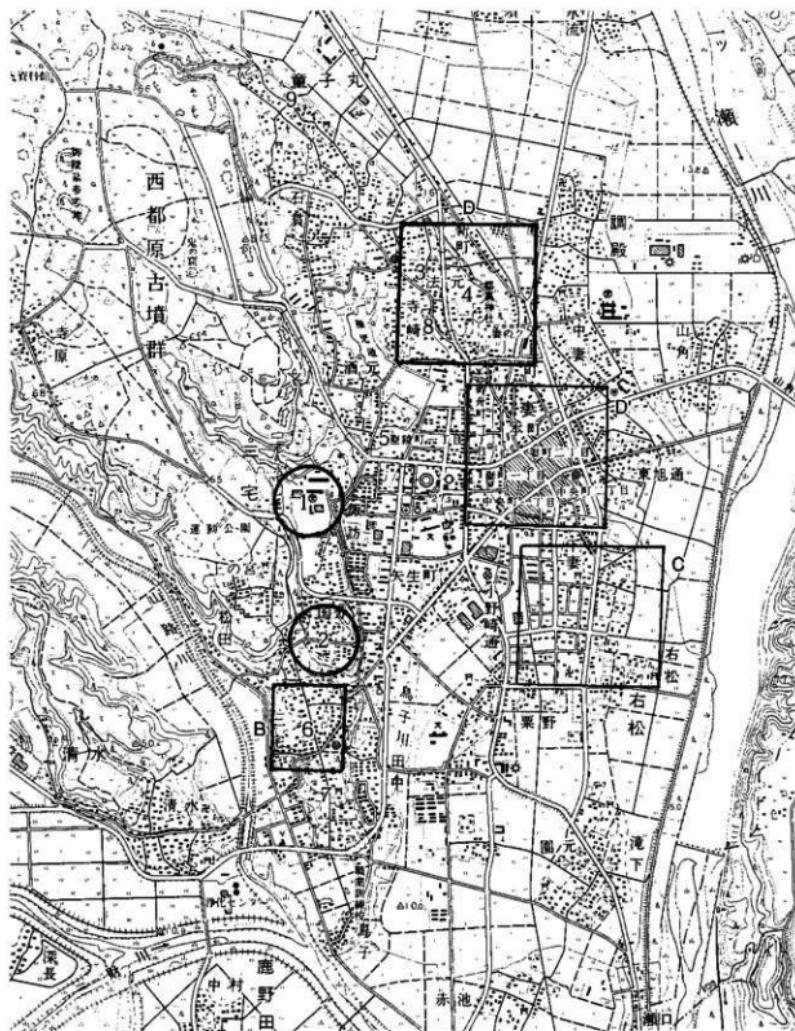
そのため、早急にその所在地と範囲を明確にし、遺跡保護のための基礎資料を作成する必要がある。よって宮崎県教育委員会では昭和63年度から3か年計画で国庫補助を受けて国衙・郡衙・古寺跡等遺跡詳細分布調査を実施した。

遺跡詳細分布調査では県内の西都市をはじめとする布目瓦出土地や佐土原町を中心とする瓦窯跡の分布や試掘調査を実施した。その結果、国府所在地として可能性の高い西都市の推定地については稚児殿池と都萬神社に挟まれた中間台地の推定地D（妻～剣田）から軒丸瓦や布目瓦が確認され有力な候補地として浮上してきた。同じく中間台地上の推定地B（三宅）からも軒丸瓦や布目瓦が出土しているが、前方後円墳や円墳が点在していることや占有地の狭さなどから可能性は低いと考えられる。一方、沖積地に広がる推定地C（右松）・D'（妻～剣田）は立地的に困難であり推定地から除外しても問題ないと思われる。

また、関連資料として、平成元年の国分寺周辺の確認調査では「僧坊」と推定される2間×5間以上の掘立柱建物が検出され伽藍配置の一部が明らかにされた。さらに、国分寺跡・寺崎遺跡出土の凸面横綱目叩きの平瓦と須恵器は、佐土原町教育委員会が試掘調査をおこなった下村窯跡群で生産された可能性が高いといった。

これら遺跡詳細分布調査の結果をふまえ、県教育委員会では、平成3年から5か年計画で国庫補助を受けて推定地Dを中心とした国衙・郡衙・古寺跡等の範囲確認調査を実施することとした。

過去2年間の調査では、推定地Dの東端にあたる都萬神社周辺の上妻遺跡の確認調査を中心に行い寺崎地区とは異なり格子目叩きの瓦が出土している。その中には豊前金剛宝戒寺（大分市）と同範の可能性の強い白鳳様式の百濟系瓦（単弁八葉蓮華文軒丸瓦）が見られ初期の国衙あるいは氏寺が想定される。



第1図 日向国府推定地および周辺遺跡位置図

B三宅 C右松 D妻～刎田 (B～E : 国府推定地) 1.国分尼寺推定地 2.国分寺跡 3.法元遺跡
4.上妻遺跡 5.酒元遺跡 6.上尾筋遺跡 7.下尾筋遺跡 8.寺崎遺跡 9.童子丸遺跡

調査の組織

平成6年度の調査体制は下記のとおりである。

調査主体

宮崎県教育委員会

教育長	田 原 直 廣
教育次長	八 木 洋
教育次長	中 田 忠
文化課長	江 崎 富 治
課長補佐	田 中 雅 文
庶務係長	高 山 恵 元
" 主査	宮 越 尊
埋蔵文化財第一係主幹兼係長	岩 永 哲 夫
関係市町村教育委員会	

指導監督

文化庁記念物課文化財調査官	西 田 健 彦
---------------	---------

調査指導委員会

福岡大学人文学部教授	小 田 富士雄
奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター 研究指導部集落研究室長	山 中 敏 史
宮崎県文化財保護審議会会长	野 口 逸三郎
西都市西都原古墳研究所所長	日 高 正 晴
宮崎県総務部参事	永 井 哲 雄
宮崎県立農業高校教諭	阿 萬 美 水

調査員

県文化課埋蔵文化財第一係主事	橋 本 英 俊
県総合博物館埋蔵文化財センター主査	長 津 宗 重
県史編さん室主任主事	池 田 伸 二
県総合博物館主査	近 藤 協
西都市教育委員会社会教育課主事	養 方 政 幾
佐土原町教育委員会社会教育課主任主事	木 村 明 史

特別調査員

鹿児島ラサール高等学校教諭	永 山 修 一
---------------	---------

第2節 調査の概要

今年度は、都萬神社と稚児殿池に挟まれた推定地Dの寺崎地区に絞つて調査を実施した。まず国府の西端を確認するため稚児殿池の西側の茶畑に3m×25mのトレンチをいた結果、A地区では自然疊層まで擾乱が達しており布目瓦や須恵器・土師器等に混じて近世や近代の陶磁器片や瓦片が出土し遺構は検出されなかつた。C地区では、2本のトレンチをいた結果、T1で数個のピットと古墳時代の堅穴住居の一部が、T2で土塙が検出された。A・C地区では、調査の目的である奈良時代と平安時代の遺構・遺物は検出されなかつた。

次に、平成5年度に検出された建物（回廊）・柵列（塀）の延びを確認するため隣接区域のB地区に3本のトレンチをいた。T3では、大型で方形プランの柱穴と南北方向にのびる近世の溝状遺構が検出された。大型の柱穴とともに妻側に柱穴が検出され、主軸が東西方向に延びる2間×4間以上の建物跡であることが確認された。T4では古墳時代の堅穴住居と、古代の遺構として柱穴群が検出された。T5西側で南北方向に延び、奈良時代に遡る須恵器・土師器・布目瓦を比較的多量に出土する幅約2mの溝状遺構が検出された。

調査区Dは、凸面縁目叩きの布目瓦や畿内地方搬入土器と思われるらせん状暗文を施した土師器杯蓋が出土した平成2年度の寺崎遺跡（1次）に隣接する。調査区に2本のトレンチを入れた結果、T1で転用窓1点と南北方向に並ぶ柱間240cmを測る方形プランの柱穴が3個検出された。

調査指導委員会は、平成6年11月14日に開催し、調査の方法および成果の評価について指導・助言を受けた。また、平成6年8月16日～17日に山中敏史氏に調査の方法等についての指導を、特別調査員として永山修一氏に文献をふまえた指導を頂いた。

表：国衙・郡衙古寺跡等関連調査一覧（昭和63年度～平成6年度）

年次	調査	内 容	備考・関連事項	文献
昭63	遺跡詳細分布調査	県内分布調査 国分尼寺跡確認調査	布目瓦出土地 (西都市・佐土原町・宮崎市・えびの市・延岡市)	文献1
平元		分布調査（西都市） 国分寺跡確認調査 上尾筋遺跡確認調査	2×5間以上の建物跡「僧坊」?	文献2
			下村墓跡試掘調査（佐土原町教育委員会）	文献7
			遺跡所在確認調査（西都市教育委員会） <上尾筋遺跡・下尾筋遺跡>	文献8
平2		分布調査（佐土原町） 寺崎遺跡		文献3
			遺跡所在確認調査（西都市教育委員会） <上妻I・J、童子丸Aa・Ab・B、法元H・K、寺崎E・F>	文献9
平3	範囲確認調査	童子丸遺跡第1地点 童子丸遺跡第2地点 上妻遺跡		文献4
平4		上妻遺跡A地点 上妻遺跡B地点	単弁8葉蓮華文軒丸瓦 石帶	文献5
平5		寺崎遺跡2次		文献6
平6		寺崎遺跡3次		



第2図 国衙・郡衙・古寺跡等の関連調査トレンチ配置図（1：7,500）

第2章 調査の結果

第1節 寺崎遺跡3次調査

調査区の基本層序は、平成2年度の寺崎遺跡（1次調査）と同様、I層（表土）、II層（暗褐色土層）、III層（黒色土層）、IV層（赤ホヤ火山灰層）、V層（硬質の明褐色土層）である。

遺構の検出はIV層上面を基本としたが、C・D地区ではIV層は見られず、V層上面での検出であった。今回の確認調査では、検出した柱穴は床面まで掘り下げず20cmの深さにとどめることとした。なおB地区については、寺崎2次調査のトレンチ番号に続けている。

A地区（西都市大字三宅4357～4359）

A地区は国府推定地D（妻～刎田）の西側に位置する稚児殿池と中間台地の境である。調査区は削平をうけているため、基本層序は第I層が褐色土層、第II層が明黄褐色土層（川原石混じり砂利層）である。遺物は、第II層から、須恵器・近代の陶磁器片が出土し布目瓦も出土したが、遺構は攪乱により全く確認できなかつた。

B地区（西都市大字右松2802）

B地区は平成5年度寺崎遺跡（2次）の調査地を含んで西側に隣接する。3本のトレンチにより確認を行つた。（図3）

T3では大型の柱穴が9個検出された。トレンチ北壁付近でSH13とSH14、その南約3mにSH17、SH18・SH19、SH16・SH20がそれぞれ切り合つた状態で検出された。また、SH13の南約1.7mにSH15が検出された。SH14は上場が約95cm×80cmの方形プランと思われる。SH17～SH19はSH14から南へ約3mのところに3個の柱穴が切り合つて所在する。3個の柱穴は、方形プランの柱穴が南北方向（SH17・SH18）に2個、円形プランの柱穴（SH19）が北西側にある。SH14～SH19は南北に延びる溝SE3、茶木の根によって切られており一部溝の床面での確認となつた。SH16・SH20は、SH17～SH19の西約1.2m SH13から南へ3mにSH20がSH16の北に接し切り合つて所在する。またSH20は、SH13の北にほぼ接して確認された。

トレンチ中央を南北にはしる溝SE3が確認され、遺物は青磁片が出土した。

T4では、古墳時代の住居の一部と30個近くの柱穴が確認された。トレンチ内の柱穴で、掘立柱建物として範囲を確認することはできなかつた。

T5では、東側と西側に南北に延びる溝状遺構SE5・SE6が確認され中央部に赤ホヤ（IV層）面から20cmの所で幅約10cmほどの硬化面が2か所南北に延びる。溝状遺構SE6は、西側部分を攪乱によって削られているが幅約2m赤ホヤ検出面から深さ90cmを測り布目瓦および須恵器を比較的多量に出土している。須恵器のなかには、墨書きもつものと転用鏡が出土している。

C地区（西都市大字三宅4386・4386-2）

C地区は、稚児殿池北東に位置しA地区から280m北にあたる。この区は、西都市教育委員会が平成2年に

確認調査を行った法元遺跡に近接する。遺構は、古墳時代の堅穴住居が1軒と柱穴が10個検出されたのみであった。調査区北側に墳丘状の高まりがあり周溝確認のためトレーナーを入れたが、周溝は確認できなかつた。遺物については布目瓦ではなく、奈良時代に遡る須恵器・土師器の出土もなかつた。

D地区（西都市大字右松2820）

D地区は平成2年度に県教育委員会が、試掘調査を行った寺崎遺跡（1次）の東隣に位置する。寺崎1次調査区では、方形プランの柱穴が検出され東西方向に主軸を持つ建物の一部も確認されている。

T1～T2で南北方向に延び、柱間240cmを測る方形プランの柱穴が3個確認された。柱穴は東西に走る幅70cm、深さ40cmを測る溝状遺構（SE8）に切られており、北側への延びは確認できなかつた。溝は、第Ⅱ層（暗褐色土層）から掘り込まれ第Ⅲ層（黒色土層）にわたっている。溝中から布目瓦や須恵器・土師器が出土しているものの、第Ⅲ層上部から石錐と打製石斧が出土している。遺物は、T1で須恵器皿と杯蓋の転用硯が出土している。その他の遺構として堅穴住居が1軒検出された。

遺物

当遺跡では軒丸瓦・軒平瓦および格子目叩きの瓦は全く出土していない。今回はB区とD区の遺物を図示する。

1、須恵器（第5図）

杯蓋（第5図1・2）

1、2ともに宝珠攝みをもち、内面を転用硯にしている。かえりがなく比較的高い天井部から緩やかに伸び端部が下方に屈曲する。

皿（第5図3）

D地区柱穴内出土の3は、口径20.9cm、器高1.9cmを測る。内面を転用硯として使用しており朱が付着している。

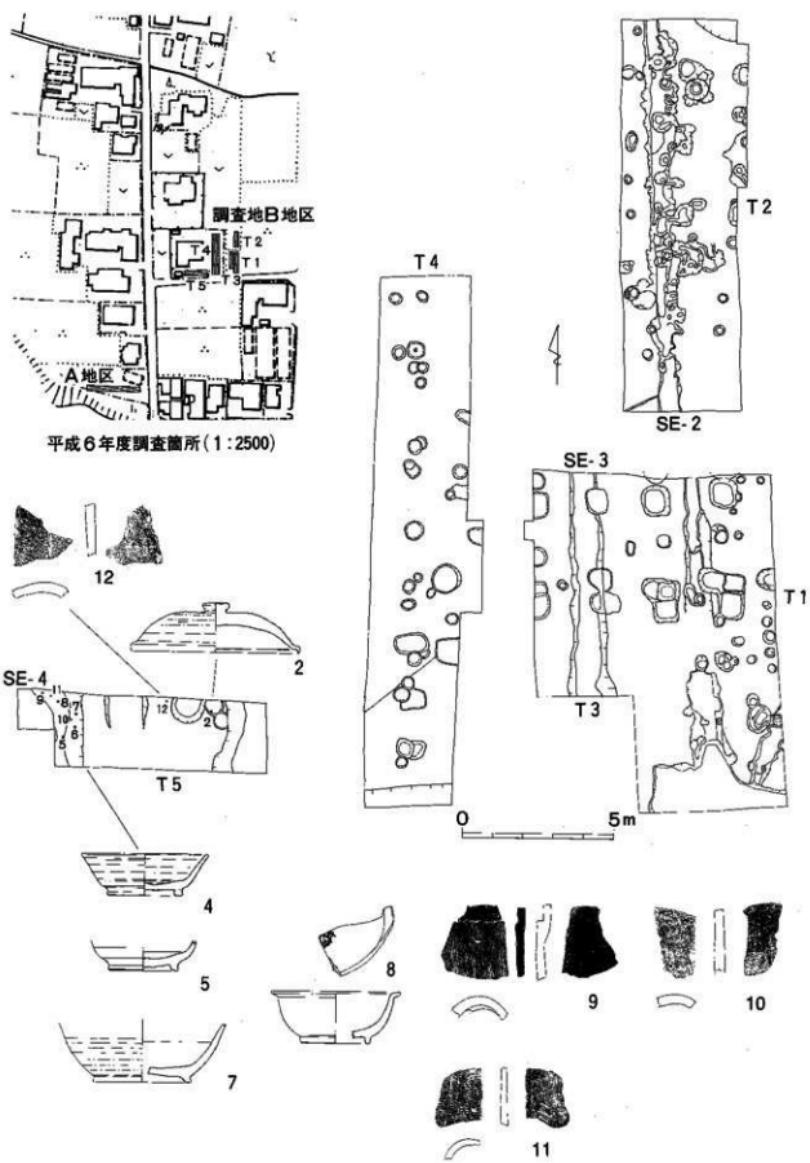
高台付椀（第5図4～8）

4、6、7は高台が断面四角形で端部がやや凹気味のタイプで4は口径12.8cm、器高4.3cm、底径7.4cmである。6は内部を転用硯にしている。底径は6が10.5cm、7が9.9cmである。5は、高台の外側が地につくタイプで底径が6.8cmである。8は内面に文様状の墨書きをもち口径12.9cm、器高5.4cm、底径6.6cmを測る。

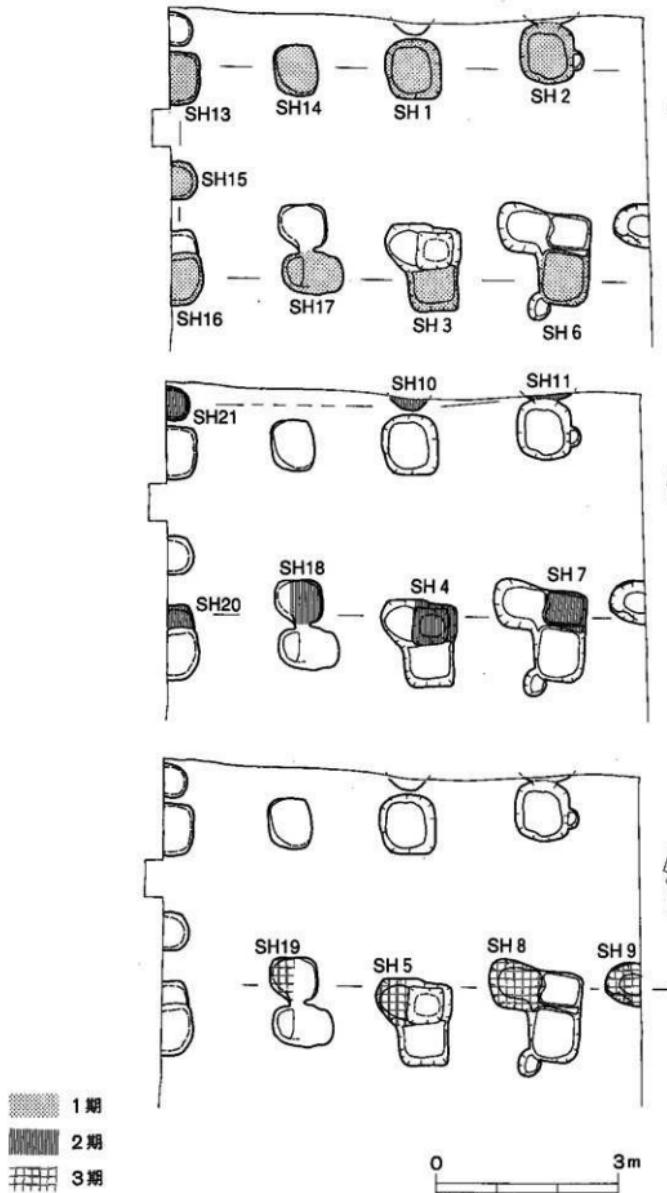
2、瓦（第5図9～12）

9～12はすべて丸瓦であり、ここではタイプの違うものを図示する。

9は凸面が平行叩きで、凹面は布目痕の上からナデ消している。平行叩きは5cm幅に10条の溝がある。筒部の端面と玉縁部の端面を欠如しており、玉縁部と段部の側面には面取を施している。10は、凸面はナデ凹面は布目痕と、面取がある端面向かってナデが施されている。11は凹面が横縄目叩きで、凹面は布目痕の上から平行叩きが施され、また側面の凸面側を面取している。12は凸面が横縄目叩きで凹面は横縄目叩きの上に布目痕が見られ、側面には面取がない。



第3図 寺崎遺跡3次調査区遺構分布図



第4図 建物想定図

第3章 まとめ

昭和63年度から平成2年度の3か年にわたって行われた国衙・郡衙古寺跡等詳細分布調査の結果を踏まえて、平成3年度から5か年計画で実施する国衙・郡衙古寺跡等の範囲確認調査の4年目にあたり、本年度は、^(註1)5か年目の平成7年度調査に向けて中間台地上の稚兒殿池と都萬神社に挟まれた地区一帯の国府推定地D(妻^(註2)へ剣田)に絞って調査を行った。

今回の寺崎3次の調査では、遺構検出において重要な成果が得られた。まずB地区T3で寺崎2次調査でSH-1=SH-2=SH-3=SH-6が並び柱間350cmの一間の細長の建物(回廊)と想定されていたものが、妻側にSH-15が検出され梁行2間×桁行4間以上の東西に主軸を持つ掘立柱建物であることが確認された。東側は茶烟のため調査できず、またT3とT4を茶垣の幅150cmをのこして近づけたが柱穴は検出されず建物はT3西側で完結していると考えられる。T5で布目瓦や、奈良・平安時代の須恵器、土師器を比較的多量に出土するSE6が検出され、区画溝としての性格が想定される。溝内から墨書による文様をもつた須恵器が出土している。

(註3)

D地区は、平成2年の寺崎1次調査で東西に主軸を持つ方形プランの建物の一部が検出されているが、今回の調査でもT1~T2で柱間240cmを測り南北方向に並ぶ方形プランの柱穴を検出している。遺物として朱書き用と推測される須恵器皿の転用窓が出土している。

以上のように今回の確認調査の結果、B区で2度の建替えが想定される東西に主軸を持つ掘立柱建物が検出され、D区で方形プランの柱穴列を確認することができた。これらの調査の結果を踏まえ、国府域の広がりや政庁の配置など遺構の点で不明な点が多いので今後の調査で十分検討していく必要がある。

- 文献1 宮崎県教育委員会「国衙・郡衙・古寺跡等遺跡詳細分布調査概要報告書Ⅰ」1989
- 2 宮崎県教育委員会「国衙・郡衙・古寺跡等遺跡詳細分布調査概要報告書Ⅱ」1990
- 3 宮崎県教育委員会「国衙・郡衙・古寺跡等遺跡詳細分布調査概要報告書Ⅲ」1991
- 4 宮崎県教育委員会「国衙・郡衙・古寺跡等範囲確認調査概要報告書Ⅰ」1992
- 5 宮崎県教育委員会「国衙・郡衙・古寺跡等範囲確認調査概要報告書Ⅱ」1993
- 6 宮崎県教育委員会「国衙・郡衙・古寺跡等範囲確認調査概要報告書Ⅲ」1994
- 7 佐土原町教育委員会「佐土原町遺跡詳細分布調査報告書」「佐土原町文化財調査報告書」第5集 1991
- 8 西都市教育委員会「上尾筋遺跡・下尾筋遺跡」「西都市埋蔵文化財発掘調査報告書」第11集 1990
- 9 西都市教育委員会「上妻遺跡他」「西都市埋蔵文化財発掘調査報告書」第14集 1991

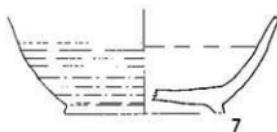
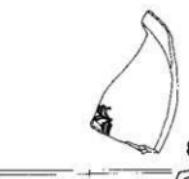
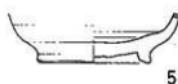
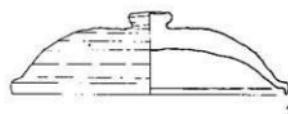
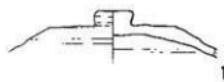
註 (1) 木下良「西都原古墳群と日向国府」「地形図に歴史を読む」4 1972

木下良「日向国府の変遷」「人文研究」60 1974

木下良「国府」1988

(2) 文献6

(3) 文献3

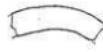


0 10cm



9

10



11

12



0 20cm

第5図 出土遺物実測図 (4・5・7~11 SE4出土)

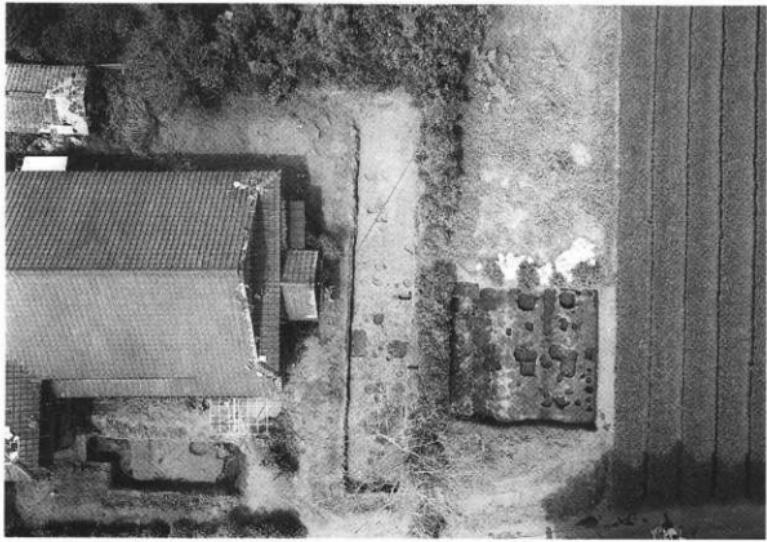


西都市調査地周辺の地形

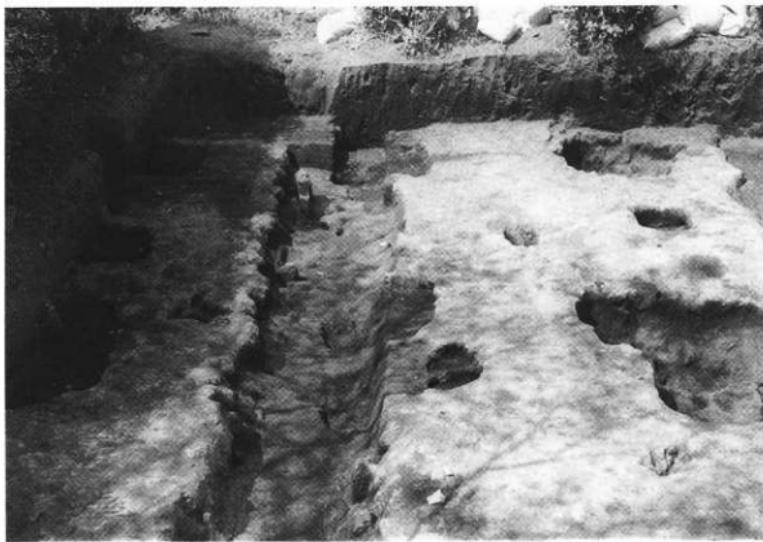
- 1.昭和63年度試掘調査地 2・3.平成元年度試掘調査地 4.平成2年度試掘調査地
5.平成3年度試掘調査地 6・7.平成4年度試掘調査地 8.平成5年度試掘調査地
9・10・11・12.平成6年度試掘調査地



調査区遠景



B地区全景(T 1~4)



B地区第1・3トレンチ遺跡検出状況（南より）



B地区第1・3トレンチ遺構検出状況（東より）

報告書抄録（記載様式案）

ふりがな	こくが ぐんが こじあとうはんいかくにんちょうさかいようほうこくしょ							
書名	国衙・郡衙・古寺跡等範囲確認調査概要報告書IV							
副書名								
卷次								
シリーズ名	国衙・郡衙・古寺跡等範囲確認調査概要報告書							
シリーズ番号	IV							
編著者名	橋本英俊							
編集機関	宮崎県教育委員会							
所在地	〒 880 宮崎市橘通東1-9-10 TEL0985-26-7251							
発行年月日	西暦 1995 年 3 月 31 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° °'	東經 ° °'	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
寺崎遺跡	西都市大字 三宅字寺崎	45208	1027	32度 6分 40秒	131度 24分 7秒	19940622～ 19940927	453	国衙・郡衙・古寺 跡等範囲 確認調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
寺崎遺跡	国衙	奈良 平安	2×4間以上の 掘立柱建物		土師器 須恵器 布目瓦		墨書による文様を もつ高台付椀	

**国衙・郡衙・古寺跡等
範囲確認調査概要報告書 IV**

1995年3月

発行 宮崎県教育委員会
編集 宮崎県教育庁文化課
〒880 宮崎市構造東1-9-10
電話 0985(26)7251

印刷 有限会社富士写真印刷
〒880-02 宮崎市佐土原町
電話 0985(74)2179